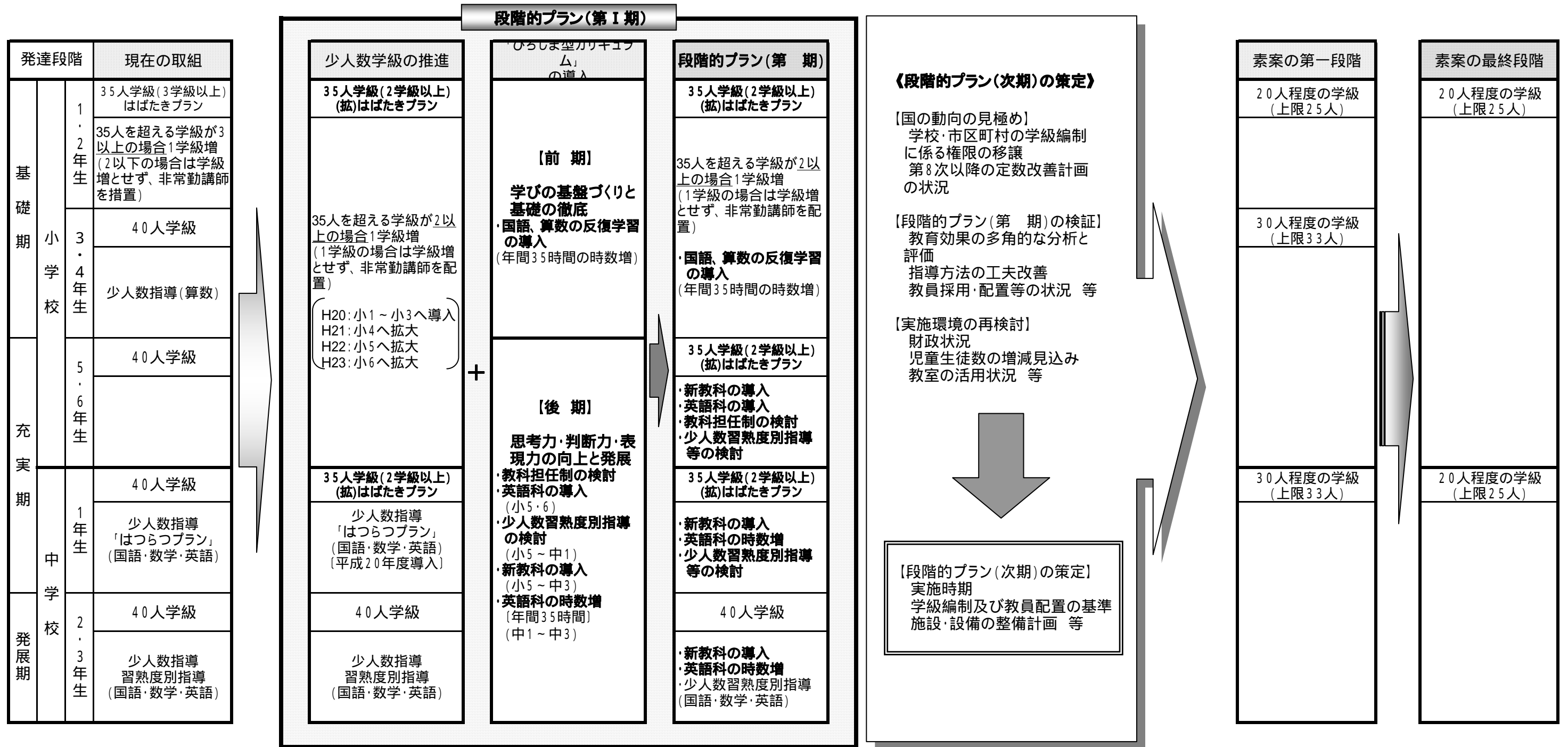


少人数教育推進のための段階的プラン(素案)の第一段階の実現に向けての取組



【少人数学級を35人学級から実施する理由】

1 「はばたきプラン」の実績

現在取り組んでいる小学校1・2年生の35人学級(「はばたきプラン」)は、集団生活や学習規律が早期に定着するとともに、きめ細かな指導の実現が図られたことにより、児童に分かりやすい授業が実施できているという成果をあげており、その拡充を求める保護者や学校現場の声に応えることができる。また、少人数学級を活かした指導方法等の蓄積も進んでおり、その活用が期待できる。

2 実現可能な経費負担

現段階における試算では、年間約20億円の経費が必要となる見込みであるが、35人学級は県教育委員会が取り組んでいる「はばたきプラン」を充実する学級規模であるため、県費負担の加配教員が活用できる可能性が高いと考えている。その場合、ある程度の経費軽減を見込むことができる。また、現在、職員配置基準の見直し等、教育委員会全体で必要経費捻出のための取組も進めていることから、最終的な経費負担はさらに抑えることが可能であると考える。

3 指導力のある教員の確保

完成年度においても必要教員数が約240人(小学校:約205人、中学校:約35人)に抑えることができ、さらに、県費負担の加配教員が活用できる可能性も高いことから、一定レベルの指導力を持つ教員の確保が可能であると考える。